

玉東町における総合評価方式の取り組みについて

平成21年10月5日；熊本県玉東町建設課

1、はじめに

玉東町は、熊本県の北部に位置し、東は熊本市と西は玉名市に隣接する 人口6000人ほどの小さな町であります。

JR九州鹿児島本線と国道208号が東西に町を二分するように走っており、現在、九州新幹線工事が町を縦断するように行われております。

JR鹿児島本線の木葉駅を中心に集落を形成し、南は金峰山北麓の緩やかな傾斜する台地に柑橘類が多く栽培されております。また、熊本市中心まで電車で20分と近く、都市近郊型の町として、住宅施策をはじめ農・住一体となったまちづくりを進めています。



2、総合評価方式の導入経緯

本町のこれまでの入札形態は、指名競争入札が主で一般競争入札や総合評価方式入札などの事例がなく、導入に際し入札事務の負担が念頭にあり、なかなか踏み切れない状態でありました。

国や県より、導入の要請や説明会が度々あり、より良い品質を確保するため、今回、総合評価方式（特別簡易型）の試行を行いました。

3、総合評価方式の導入結果

要項立案からの出発ということで、県に相談しましたところ契約までのフローを立てていただき、また、県の学識経験者の意見聴取を活用したことで、スムーズに入札事務ができました。

今回試行対象事業について、特殊工事で町外業者のみでの入札でしたが、配置予定技術者の能力を主眼におき評価の基準を設定いたしました。

入札に指名しました7社の業者も初めての総合評価方式での入札経験であり、資料作成収集には、大変協力いただき全社入札に参加していただきました。

4、最後に

総合評価方式での入札は、価格面での競争になっても経験豊富な企業、技術者を多く抱えている企業がどうしても評価値が高く、中小企業で経験の少ない企業ほど評価値は低くなり、そのような企業の受注は、なかなか難しい面があると思われます。

今回は、特別簡易型での試行でしたが、経験の少ない企業でも安全管理、品質管理、工程管理等に意欲的に提案できる簡易型を実施し、地元の施工業者の育成につなげていきたいと考えております。